

人権アラルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。

人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

女性のチカラ

「うわあ〜っ、すごい！」4台の白バイが縦一列に並び、設置された赤いコーンの間を左右に車体を傾けながら、すごい速さで走り抜けていく「傾斜走行競技」を見て、思わず声が出てしまいました。山口県警察本部が主催する警察視閲式に行ったときのことです。

コースを走っていた白バイの排気量は1000cc以上、重さは200kg以上あります。私も学生時代にバイクに乗っていたので、大きなバイクを巧みに操る技術が、いかにすごいのがよく分かります。

中でも先頭を走る白バイは重量を感じさせない滑らかな走りで、ピカイチでした。後で、その運転者が女性隊員だったと知ってさらに驚きました。操縦に大事なのは体格や腕力だけでなく、力の入り過ぎないハンドル操作や丁寧で細やかなブレーキ加減、体重移動のリズムが必要とのこと。もちろん彼女は体格や腕力で勝る男性職員では気づけない創意工夫や技術を磨き人一倍努力したでしょう。

警察庁では、日々変化する社会環境や治安情勢への対応など求められる中、「組織における女性の力をより一層活用することは、警察を強くする」という観点から、女性警察官の採用に積極的に取り組んでおり、令和2年度には1,653人（新規採用者の20.3%）の女性警察官が採用されているそうです。令和7年度末までに女性警察官を全体の12%を目標にしています。

山口県警では、現在、職員の約10%にあたる337人の女性警察官が勤務しています。女性が働きやすい職場環境を整えるため、今年の4月からは、マタニティー制服も導入されています。

「男女共同参画社会基本法」が施行されて23年、「女性活躍推進法」は施行されて5年。下関市民の「男女の地位の平等感」は16%とまだまだ低い状況です。地方では、女性が第一線で働くことを良しとしない同調圧力も存在すると言われます。ですが、こうした女性警察官の活躍に限らず、社会において女性が活躍できるフィールドは広がっています。女性の力を活かし、男女共に生きやすい時代へと意識も環境も変化することを期待します。



令和3年4月6日
春の交通安全運動出発式【山口警察署HP】

